

## ○八尾地域タウンミーティング会議録(概要)

日 時:平成24年11月11日(日)

午後 2 時 00 分から午後 3 時 30 分まで

場 所:八尾保健福祉センター

出席者:約50人

(説明概要)

テーマ1 医療制度と富山市国保財政の現状について:福祉保健部

<主な説明事項>

### 1 人口減少と高齢化

- ・日本の老年人口と高齢化率
- ・人口減少と高齢化の現状

### 2 医療制度

- ・我が国の医療制度の概要(国民皆保険制度)
- ・各保険者の比較
- ・医療保険制度の加入者等

### 3 社会保障と税の一体改革等

- ・社会経済情勢の変化
- ・社会保障給付費の推移
- ・医療費の動向
- ・高齢化により増える社会保障給付費
- ・社会保障給付と財源の現状
- ・国の一般会計歳入・歳出における社会保障関係費の割合
- ・社会保障・税一体改革の目的

#### 4 富山市国保の現状について

- ・国保の抱える構造的な問題
- ・市町村国保の世帯主の職業構成割合の推移
- ・富山市国保の特徴
- ・富山市人口ピラミッド
- ・1人あたり医療費(富山市)
- ・富山市国保の財政状況
- ・今後の収支見込
- ・赤字の主な要因
- ・富山市国保の今後の取組み

(福祉保健部の説明に対する質問)

男性1:

今後の取組みについての説明がありましたが、歳入の確保について、一般会計からの繰り入れについて丁寧に説明されていましたが、私もいずれ国保に加入せざるを得ない立場になります。出来るだけ保険料の負担は抑えてもらいたいという思いがあります。社会保障と税の一体改革の中で、消費税の8%、10%の値上げも予定されており、医療費やその他生活費を厳しくみて、生活を見直さなければならないと思いますが、やはり健康が第一だと思いますので、極力個人の負担をきたさないような方法で考えていただきたいと思います。

一方で、公民館等で健康維持等の活動も推進されていますから、更に啓発活動をしつつ、市民が健康を保てるように、なるべく病院にかからないように、我々自身も意識していかななくてはいけないと思っています。極力個人の負担を減らすかたちで推進してほしいと思います。

(福祉保健部長)

ご意見ありがとうございます。資料の富山市国保の財政状況にもありますが、歳入における税金は、大方、いわゆる現役世代の方が負担しておられて、なおかつ、前期高齢者交付金や療養給付金というのは、現役世代の方が加入しておられる協会健保や組合健保などから拠出されており、現役世代の方が、かなりの部分を支えています。

先程も説明しましたが、元々所得が低いところに医療費が高いものですから、保険料負担が他の保険に比べると重いという構造になっており、残りの足りない部分を全部保険料でまかなうことは出来ませんので、一般会計からも拠出をする。一般会計からも拠出をするということは、現役の方々を中心にさらにご負担をいただくということになるものですから、そういった一般会計からの赤字補填のための拠出とあわせて、保険料の部分についても、中核市で25位、県内で11位という状況ですので、いくらかはご負担をお願いできないだろうかというのが私達の考え方ですので、ご理解いただきたいということでございます。

## テーマ2 救急出動の現状と応急手当について:消防局

### <主な説明事項>

- 1 救急車の配置状況
- 2 富山市の救急出動件数と人口動態
- 3 平成23年 年齢区分別搬送割合
- 4 平成23年 傷病程度別搬送割合
- 5 過去3年間の事故種別ごとの出動件数
- 6 現場到着所要時間
- 7 出動指令
- 8 救急車の出場方法

- 9 病院との連絡体制
- 10 搬送先病院の変更
- 11 傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準
  - ・第3号観察基準 脳卒中
  - ・第2号医療機関リスト 脳卒中
- 12 救急車が到達するまでの応急手当
- 13 応急手当と救命曲線
- 14 市民によるAED使用奏功事例
- 15 救急講習の種類
- 16 普通救命講習の内容
- 17 富山市における各講習受講者総数
- 18 応急手当普及員バンク制度
- 19 応急手当 心肺蘇生の実施率向上を目指して

(消防局の説明に対する質問)

男性1:

資料で、救急車で搬送された人の約51%が入院を必要としない人ということで、救急車を有料化したらどうですか。軽症である51%の人は、1回あたり2千円程、その他は本来の無料、まあ、3段階位に分けたほうがいいのかもかもしれませんが、そういうかたちでPRして、その料金を救急車の台数に充てるとか、医療のサービスレベルを上げるとかに使ったらどうかと思います。

(消防局長)

ご意見ありがとうございます。有料化につきましては、国の方でも一時検討されており

ましたが、なかなか踏み切れない色々な事情があります。この軽症というのは、結果的に軽症であって、最初に救急要請された時には分かりません。全部がそうではないですが、中には倒れて瀕死の重症かと思われた方でも、病院へ着いてしばらくすれば回復された場合でも、入院が必要ないことから結果的に軽症となります。

消防局では、市民の税金をいただいて救急業務をしております。ですから、有料化によって、お金を払えない苦しい人は、救急車を要請出来るかという問題があります。逆に経済的に余裕のある人は、軽症でも、お金を払うから救急車に来てくれと、いわゆるタクシー代わりに利用することも心配されます。ですから、一概に軽症だからこれを有料化すればいいというのは非常に難しく、国のほうでも検討されていますが、なかなか結果が出ません。我々も推移を見守っていきたいと思います。

男性1:

どんな事を決めるにしても例外というのはあります。ですから、有料化のためにどうするか、結果として入院にならなかった人には無料で、タクシー代わりに使った人には料金を取って欲しいということです。それが意識の向上、意識改革になるのです。料金を取ることが目的ではないのです。国も役所も必ず例外の事を言われますが、どんな事でも100%ということは絶対ありません。

しかし、8割、9割の人がそうだったら、後の例外の1割、2割をどうするかを考えていけないといけない。本来なら無料に越したことはないけれど、医療と一緒に、薬で一生懸命長生きする人生がいいのか、短くても充実しているほうがいいのか、この辺の発想からやらないといけない。もっと言えば、医療費を10%削減するにはどうすればいいのか、民間の人に聞けば、やり方はすぐに分かります。どれだけでもアイデアがありますよ。何度も言いますが、有料にすることが目的ではなく、緊急の時に使うことをもっとしなければならぬのではないのでしょうか。

(その他意見交換)

男性1:

滑川市で起きた孤独死の事例ですが、富山市は、孤独死を防ぐ対応策はあるのかお聞きしたいと思います。

(福祉保健部長)

孤独死ということだけに焦点を当てているわけではありませんが、昔は、隣近所の人何か問題があれば、助け合うのが当たり前の世の中だったのですが、最近、隣は何をする人ぞという風潮が大変強まっている中で、高齢で一人では生活が立ち行かない方がおられますので、そういう方々を意識的に見守るということを行いたいということで、一つは、地域包括支援センターが中心となって、要介護の人達の中で見守りが必要な人達のネットワークを作るということを行っております。

また、社会福祉協議会で、一昨年から要介護者に関わらず、障害者や子供さんを含めて見守りネットワークを作っていくという活動が始まっております。地域包括支援センターが中心のネットワークは、全市で約800くらい、社会福祉協議会のほうも少しずつ増えてきて、正確な数字は分かりませんが、何百か出来ている状況があります。そういうものを、これから益々きめ細かく活動して、支援が必要な人については、そういった体制をとっていきたいと思っています。

また、災害時の要援護者の届出をしていただいております。これは、災害があった時に、自主避難が出来ない人について登録をしていただいて、担当の人を決めて、何かあったら見守るという仕組みで、これは当事者の方も申し出をしていただく必要があります。ですから、滑川市の事例でも、新聞等をみていますと、色々と援護が必要かもしれない状態であったにも関わらず、近所や民生委員との付き合いをしておられなかったことも大きな要因かと思っておりますので、一方では、そういうことで、見守りのネットワークをこちらからも意識的に作っていくということと、当事者の方にも、何かあったらサインを出し

ていただくということでも働きかけをするということで、滑川市であったようなことが富山市でも起こらないように努めていきたいと思っております。

男性2:

ニュース等を見ると、富山市の自主防災組織の組織率があまり良くなかったように思います。富山市は合併によって非常にエリアが広がって、そういった状況で組織率が悪いのではと思っているのですが、実際私が住んでいる所は中山間地で、昔は非常に横のつながりが強くていい地域だったのですが、若干住宅団地が出来て、その辺の組織力がなんとなく悪いなと感じております。富山市として組織率を上げるために何か考えておられるのか、或いは何か問題があって進んでいないのか教えてください。

(企画管理部長)

自主防災組織の組織率についてですが、確かにご指摘の通り、他の市町村と比べると富山市が少し低いということで、町内会単位を一つのエリアとして自主防災組織を作れないかという方向性で行なっているのが富山市のやりかたです。

一方で、他の市町村では、例えば自治振興会単位、小学校のエリアで一つ作るとか、中学校のエリアで一つ作るとかになると、自主防災組織に参加している住民の数が、例えば中学校単位と町内会単位とでは、入っている皆さんの組織率が全然違ってきます。自主防災組織を作る時のエリアというのが、結構組織率に影響しているのが現状です。

私の地元も、そろそろ自主防災組織を考えようかということで、先般会合していたのですが、そんなに難しくはないのですが、やはり自主防災組織を作る時には、組織の規約等を作らなければならないことに結構抵抗感があったようです。建設部では、街なかの町内会であったり、周辺地域の町内会であったり、それに応じた規約等のマニュアルを伝授しますということで、現在建設部の方で、一生懸命取り組んでいるところですので、そのようなご用向きがありましたら、富山市の建設部などに申し込みいただければ、段取りを内部のほうでつけたいと思います。

あと、各地域でのコミュニティというか近所付き合いとか親戚付き合いだとか、友達付き合いということが、やはり少しずつ希薄になってきていますが、これは社会の推移なので、それを全否定するわけにはいかないと思います。ただ、いま言われたように、昔だったら近場に一人暮らしの高齢者の方が住んでおられたら、雪が降ったら屋根の雪を降ろしてあげたり、交代で除雪をしたりといったことがあったのですが、最近はそういった音頭をとる人がいません。やはり町内会長さんですとか、地域の例えば防犯だとか色々な自治会のなかの委員会があるでしょうし、社協もそうですけど、そういったことで声を出していただくことが必要になってくると思います。

そのためにも、例えば組織作りだとかそういったものについて、行政として支援出来るものがあれば、支援していきたいと思いますが、地元の住民の意識の問題だと思いますし、旧富山地域が、これだけ都市化していますので、周辺地域はむしろまだ、住民の皆さんの意識も高いとは思いますが、従いまして、少しでも皆さんの意識が高い時に、是非とも声を挙げていっていただくことが、大きな力となると思いますので、こちらからもお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

男性1:

呉羽山断層の調査を市の方でされたということは、非常に高く評価しているわけですが、この調査に基づいて今後なにか方針を持っておられるのか。

それからもう一点、先程除雪の話がでましたが、皆さんそういった気持ちは持ちながらも、皆さん高齢化していくなかで、なかなか思いはあっても体が動かないといったことがあると思いますので、特に中山間地における除雪対策についてどのように考えておられるのか、その2点をお聞きしたいと思います。

(企画管理部長)

呉羽山断層関係につきましては、詳しいことは今、分からないというのがご返事となります。ただし、去年そして今年も呉羽山断層の調査を市が独自で行なっております。そ



の調査結果を踏まえて、具体的にどういことが可能なのかについては、まだちょっとお話し出来ませんが、今ちょうど津波の関係があったことから、国や各都道府県でも地域防災計画を見直しました。

現在富山市についても、国、県の防災計画の見直しを踏まえて、新たな防災計画を作ろうということで、見直しをしております。少なくとも、今ご指摘いただいた地震に関する断層の関係ですとか、それから津波の関係ですとかにつきましては、今後見直しをする富山市地域防災計画のなかで反映されるであろうと思っております。これも建設部の所管ですので、具体的な中身についてお答え出来ないのは申し訳ないですが、断層の関係につきましては、地域防災計画のなかで対応を見直していくことになっているところですよ。

(八尾総合行政センター所長)

中山間地の除雪につきましては、八尾地域では、保内とか杉原とかについては、職員が実際現地に出て雪の状況を確認した上で、除雪体制を指示しています。また、中山間地の例えば大長谷ですとか、現地まで確認に行くのは大変なものですから、そこについては、契約している業者の方に状況を確認していただいて、除雪が必要だと判断していただいた場合には、自主的に出動していただくという体制になっておりますので、除雪が遅れるということはないと思っておりますので、よろしく願いいたします。

※発言の一部を整理して掲載しています。(広報課)